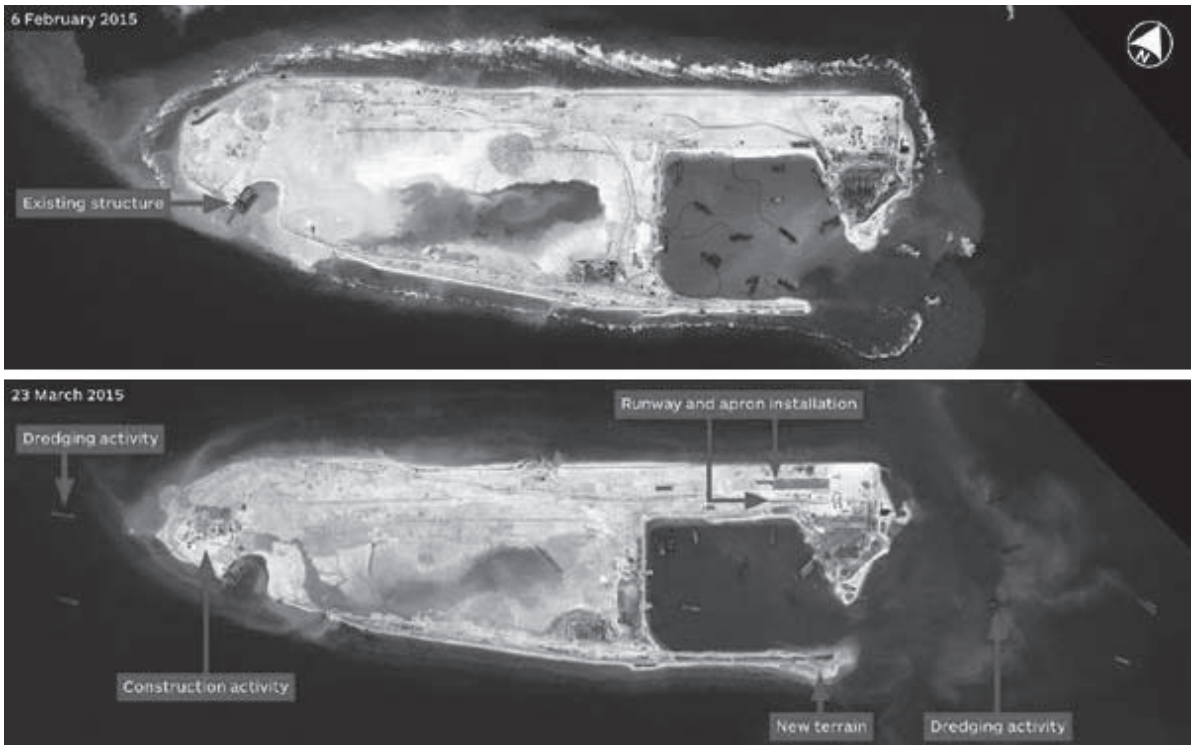


■ 『グリーンピース』と『シーシェパード』さん。  
**暴力団国家の『中国』が「南シナ海」の自然を  
 破壊しています。イルカや鯨も迷惑しています。  
 勇気を奮って暗礁と岩礁を守ってあげてください。**

と、でも言いたくなるような中国の違法な埋め立てですがアレヨアレヨと言う間に7箇所も埋め立ててしまった。

中には衛星写真で大砲らしきものが写ったものがあったが『軍事基地化』するのかと思っていたら、つぎの衛星写真では大砲が消えていて写っていない。

まるでミステリーかマジックか？あの砲はどこへ消えたのでしょうかね。



南シナ海「スービ礁」(上) 大砲有り (下) 大砲なし



習近平主席



オバマ大統領

先月号で習近平主席が国賓待遇でアメリカを訪問。

シアトルのボーイング社で300機の旅客機を4兆5000億円の爆買いをし、札幌でオバマ大統領のほっぺたを張り倒して首脳会談をしたつもりだった習近平国家主席。中国国内向け放送用ビデオの「熱烈大歓迎」ぶりは演出、編集で何とか誤魔化したでしょうが、実際にワシントンの空港にはオバマ大統領夫妻ではなく、副大統領バイデン氏のお出迎え。

アメリカ議会での演説はやんわりと拒否され、冷たい対応。

◆ホワイトハウスで待ち構えていたオバマ大統領は

- ①南シナ海埋め立て基地問題
- ②中国によるサイバー攻撃問題
- ③中国の経済問題
- ④中国の人権問題

などをふんわり、とやわらかく質問した、という。

ところが、習近平主席は「えっサイバー攻撃?! 実は中国も被害者なんだ」ととぼけて見せた、という。

新聞報道ではアメリカの民間企業のデータが盗まれて数千億円の被害ということになっているけれども本当はアメリカ軍の艦船や戦闘機がコンピュータシステム通信で動き、そのシステムをハッキングして盗みだした中国が自国の機動部隊にそっくり転用しようとしたことが判っていたので、オバマ大統領が我を忘れて大声で「○X☆△」と叫んだのだという。

アメリカ国防省内では「習近平は嘘つきだ」「信用するわけには行かない」ということは常識となっており、国防省は2015年5月の段階からオバマ大統領に南シナ海での「軍事作戦」を提案をしている。

しかし「私の大統領時代に戦争になる事は控えたい」というオバマ大統領は重い腰を上げようとしなない。「優柔不断」といえば「優柔不断」だが「ノーベル平和賞」をもらえば「腰抜け」にもなるろう。

オバマ大統領は習近平主席に私は「ノーベル平和賞」をもらっている大統領だ。それに、「TPPがまもなく合意する。日本とも合意が成立した。南シナ海はTPPにとって大事な交易路になる」と告げる。無表情に目を合わせようとしなない習近平主席。

険しい表情になったオバマ大統領は眼光鋭く「南シナ海の違法な埋め立て基地建設は止めてくれないか？」と提案するのだが・・・。

習近平主席はオバマ大統領と目を合わせず、いきなりペーパーを読み上げだしたのだ。おそらく、オバマ大統領が本当に怒り心頭に達したのは、この瞬間だったのだろう。

日本の任侠映画ではないが、「我慢して我慢して」「忍び難きを耐え、耐え忍んでいる」時にさらに「侮辱」されたり「プライド」を傷つけられると、めでたく爆発点に達する。真面目な人、やさしい人ほど爆発力は強く荒れ狂うものだ。

習近平主席がホワイトハウスを離れるやいなやオバマ大統領はアメリカ国防省に軍事作戦の実行を指示した、という。

しかし、ワイズ編集部では先月号にアメリカ訪問で点数稼ぎを企てた習近平主席がアメリカ訪問の失敗を挽回するために東シナ海に漁民を装った兵士を上陸させてくるかも知れないと書きました。しかし、「東シナ海」ではなく「南シナ海」でしたね。

しかも、『中国』がではなく「アメリカ」がです。

しかし、まだオバマ大統領は優しさを忘れてはいません。打撃戦のできる空母『ロナルドレーガン』を出勤させてはいきなりの戦争になりかねない。また、通常なら3隻編成直列で進める「イージス駆逐艦」も迫力が有りすぎるので、たった1隻だけ。「イージス駆逐艦『ラッセン』」の派遣に止めたからです。作戦名は『航行の自由作戦』。随行したのは哨戒機P8A。12カイリ内を航行しているかどうかを確認記録する役目です。

これだけ配慮してもらっているのに、中国は埋め立て造成建設を少しも休めようとはしません。

**中国にはやさしい気持ちは伝わらない、のですね。**